



関係機関が連携して東日本大震災の記録を残す必要性を確認したフォーラム

図書館、博物館・美術館、大学など

震災記録保存へ連携

東北大で政策フォーラム

図書館政策フォーラム 2012「東日本大震災とMALUI連携」が27日、仙台市青葉区の東北大マルチメディア教育研究棟で開かれた。東日本大震災の記録を残すため、図書館や博物館に限らず幅広い関係機関の連携の必要性を確認した。政策フォーラムは、図書館の今後の方向性を考える「図書館総合展フォーラム」の一環。同総合展運営委員会と東北大付属図書館が主催し、全国から関係者約400人が出席した。

博物館・美術館、文書館、図書館、大学、産業界の英語の頭文字から「MALUI(マルイ)連携」と名付け、関係機関の横のつながりで資料をどう保存していくか話し合った。講演した大滝則忠国立国会図書館長(山形県川西町出身)は、記録を収集、保存する同館の「震災アーカイブ事業」を説明。「災害に関する情報を一元的にアクセスできる基盤をつくり、今後の

防災対策に生かしたい」と述べた。

パネル討論もあり、東北大災害科学国際研究所の今村文彦教授は「アーカイブが必要なのは、過去の津波被害から多くの

教訓を学べるからだ。具体的な備えに役立てる必要がある」と強調した。被災地の最前線にいた自衛隊や消防などの記録をどのように残すべきかも課題に挙がった。